

消化器外科紹介

—膵臓がん早期発見プロジェクト—

とうやま
外科部長 藤山 泰二



はじめに

膵臓がんは、有効な早期診断のバイオマーカー（血液などから得られる指標）がなく、画像診断の感度が低いことから早期発見が困難です。近年、地域の連携病院と協力して「膵臓がんのリスク因子を有する患者さんを無症状の段階から定期的に検査をする」診療活動の有効性が報告されています。

今年度から松山市民病院に肝胆膵外科専門外来を開設し、地域医療機関と連携した膵臓がん早期診断のための活動を消化器内科と共に開始しました。その取り組みについてご紹介させていただきます。

膵臓がんの疫学

腫瘍径1cm以下の膵臓がんの5年生存率は80%以上

2022年の国の統計による部位別がん死亡数では、膵臓がんは男性で第4位、女性で第3位でした。膵臓がん全体の5年相対生存率は8.5%と予後不良ですが、腫瘍径1cm以下の膵臓がんでは80%以上と報告されており、予後改善のためには「手術が出来る小さな膵臓がんをいかに早期に発見できるか」がとても重要になります。

膵臓がんの危険因子

膵嚢胞、膵管拡張、糖尿病の悪化、膵臓がんの家族歴は危険因子

膵臓がんの危険因子としては、膵臓がんの家族歴、糖尿病の新規発症や悪化、肥満、慢性膵炎、喫煙、飲酒、膵嚢胞（膵管内乳頭粘液性腫瘍：IPMNなど）、家族性膵がん家系（第一度近親者（親子または兄弟姉妹）に2名以上の膵臓がん患者さんがいる家系）などが挙げられています。

膵臓がんの症状

3mm以上の膵管拡張、膵嚢胞など危険因子を有する方は二次検査を

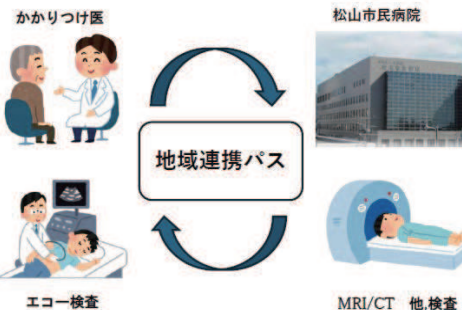
膵臓がんの初発症状として、腹部の

違和感、腹痛、黄疸、腰背部痛、体重減少などが報告されていますが、早期の膵臓がんは症状を認めないことが多く、定期的に検診を受けることが大切です。糖尿病を指摘されてから1年以内の膵臓がん発生の相対リスクは5.38倍と報告され、3年以内の膵臓がん発症は50歳以上では実に10倍と報告されています。また、膵管拡張の目安は3mmとされていますが、腹部エコー検査で膵嚢胞や膵管拡張を認めた場合は、二次検査が推奨されます。

膵臓がん早期発見プロジェクト

松山市民病院の取り組み

当院では、膵臓がん早期発見プロジェクトとして、専用の診療情報提供書を作成し、近隣の病院の先生方と共に診療に当たっております。かかりつけ医の先生方に臨床症状、家族歴、膵炎の既往の有無、糖尿病、血液検査、エコー検査など関連する項目をチェックしていただき、陽性項目が認められた場合には当院にご紹介いただき、二次、三次精査（CT検査、MRCP検査、超音波内視鏡検査など）を行います。その後は患者さんの検査結果に合わせて、ご紹介していただいた先生と協力し継続した定期的フォローをしていく取り組みです。



地域医療機関との連携の重要性

肝臓病や心血管系疾患で定期通院中の方へ

早期(Stage 0, I 期)膵臓がんの患者さんは、半数以上(53.5%)の患者さん

が他疾患の経過観察中に異常を指摘されたと報告されています。膵臓がんの危険因子の糖尿病、喫煙、飲酒、肥満（脂質異常症）などは肝臓病（脂肪肝炎）や心血管系（動脈硬化）の危険因子とも重なります。これらの危険因子を有し近医を通院している患者さんは、膵臓がんの検診も併せて行っていただきたいと思います。

さいごに

膵臓がんは、早期に発見され治療できれば十分に根治が期待できる疾患です。近年、手術手技の改善、有効な抗癌剤の登場による集学的治療の進歩により治療成績は向上しています。気になる症状や所見を認めた場合は、当院の消化器内科・肝胆膵外科の「膵臓がん早期診断 病診連携窓口」までご相談ください。

膵臓がんを疑う患者様のご紹介について
～ 専門外来開設のご案内 ～

このたび当院では、膵がんの早期発見と診断精度の向上を目的として、「膵がん疑いチェックリスト」を用いた膵疾患専門外来を開設いたしました。

膵がんは、他の消化器がん以上に早期発見が難しく、診断時にはすでに進行していることが多いため、依然として予後の悪い疾患です。一方で、近年の画像診断技術やリスク評価法の進歩により、より早い段階での病変の検出や膵がん病変の把握が可能となっており、早期診断にはリスク因子を持つ方の定期的検査が重要です。

当院では、以下のような症状や所見に該当する患者様に対し、膵疾患に精通した専門医による評価と、必要に応じてCT、MRI、MRCP、超音波内視鏡(EUS)などの精密検査を行い早期診断・治療方針の決定を迅速に行う体制を整えました。

膵がん疑いチェックリスト

- 1 症状がある(腹痛、背部痛、食欲不振、腹満感、体重減少、黄疸)
- 2 糖尿病、特に近年新規発症、コントロール悪化
- 3 膵がんの家族歴
- 4 腫瘍マーカー(CA19-9)が高値
- 5 慢性膵炎などの既往歴
- 6 腹部エコー、CT、MRIで右記の所見がある。 膵のう腫、膵管拡張、膵嚢胞

これらの項目に1つでも該当する患者様がいらっしゃいましたら、「念のため」「経過観察中だが気になる」などの段階でも、ぜひ当外来へご紹介いただければと存じます。

膵疾患専門外来 外来当直

月・木曜日(午前・午後)
消化器外科 藤山 泰二(とうやま たいじ)
火・金曜日(午前)
消化器内科 今村 良樹(いまむらよしき)
火曜日(午前)
消化器内科 武智 俊治(たけち しゅんじ)

松山市民病院 膵疾患専門外来
地域医療連携室 ☎089-913-0081

https://www.matsuyama-shimin-hsp.or.jp/outpatient/expert/kantansui/pancreas_renkei/

詳しくは
当院ホームページを
ご参照ください!!

